

---

---

## 経済学部現代ビジネス学科 履修案内

2020 年度 S S I 所属生用

---

---

【2016年度以降入学生】

[注意]

この履修案内は、現代ビジネス学科 S S I コース所属学生に適用されるカリキュラムに沿って編集されたものです。

他コースの現代ビジネス学科生と共通する事項・学部の共通事項については、割愛していますので、「経済学部履修要綱」の該当ページを読んでください。

**法政大学 経済学部**

---

# I . 教育課程および単位制度

## 1. 教育課程

授業科目は、基礎教育科目、外国語科目、保健体育科目、総合教育科目、SS I 基礎科目、SS I 専門科目および専門教育科目から構成される。これらの科目は学生諸君が基本的には4年間でより広い学際的視野のもと、体系的に経済学を学ぶとともに、スポーツに関する総合的な知識と技能をも修得することができるよう配置されている。

その他、スポーツ関連の資格、及び教員・社会教育主事・図書館司書・博物館学芸員等の資格取得希望者のために、教職・資格に関する科目を設置している。

## 2. 単位制度

本学における教育課程は、単位制度を採用している。

単位制度とは、一つの授業科目について履修を終了し、平素の学習状況・出席状態および所定の試験またはレポート等による成績評価をもとに合否を判定し、合格となれば、その授業科目に与えられている単位を認定する制度である。

履修の終了とは、履修登録をした科目について1年間(科目によっては前期又は後期のみ)の授業を受け終えた場合を指し、これが単位修得の条件となる。

従って、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間に届け出て、承認を得なければならない。〔学則第22条〕

### 〔各授業科目の単位数〕

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている(学則第23条)。この場合の学修の時間には、正規の授業時間の他に教室外の授業時間等も含まれている。

従って、大学の教育においては教室授業と自習もきわめて重要であり、日頃、教科書や参考書を読むなど授業に備えることを心がけてほしい。

特に講義・演習科目においては、十分な自習時間を確保することがのぞまれる。

## Ⅱ. 卒業所要単位

経済学部を卒業して学士(経済学)の学位を得るためには、4年以上(最高8年)在学し、以下の(1)～(7)の所定単位の条件をすべて満たし、合計124単位以上を修得しなければならない。

- |                             |
|-----------------------------|
| (1) 基礎教育科目(入門ゼミ) = 4 単位     |
| (2) 外国語科目(英語) = 6 単位        |
| (3) 保健体育科目(スポーツ総合) = 2 単位   |
| (4) 総合教育科目 $\geq$ 14 単位     |
| (5) S S I 基礎科目 = 14 単位      |
| (6) S S I 専門科目 $\geq$ 30 単位 |
| (7) 専門教育科目 $\geq$ 54 単位     |

〔卒業所要単位表〕

科目区分	区 分	卒業に必要な単位	
基礎教育科目	入 門 ゼ ミ	必 修	4 単位
外国語科目	英 語	必 修	6 単位
保健体育科目	スポーツ総合	必 修	2 単位
	スポーツ種目	自由選択	
総合教育科目		選択必修	14単位以上
S S I 基礎科目		必修	14単位
S S I 専門科目		選択必修	30単位以上
専門教育科目			 54単位以上
卒業所要単位合計			124単位以上

## Ⅲ. 進級規程

各学年へ進級するに際しては、以下の条件をすべて満たしていなければならない。「進級規程」の適用はきわめて厳格なものであり、1単位の不足があっても進級することはできない。なお、進級は学年度初め(4月1日付)をもって行う。

### 進級に関する規程

- (1) 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上修得していなければならない。
- (2) 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに50単位以上修得していなければならない。
- (3) 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに次の単位を修得していなければならない。
  - ① 基礎教育科目の卒業所要単位(=入門ゼミ4単位)
  - ② 外国語科目の卒業所要単位(=英語6単位)
  - ③ 保健体育科目の卒業所要単位(=スポーツ総合2単位)
  - ④ 総合教育科目+SSI基礎科目+SSI専門科目  
+専門教育科目 $\geq$ 76単位
- (4) 単位不足で第3年次(第4年度目以降)に留められた者は、履修単位制限内で履修することができる。ただし、留年した第3年次で卒業に必要な単位を修得した場合でも、第4年次には4単位以上修得しなければならない。

[注] 進級に関する再試験は実施しない。

〔進級所要単位表〕

学 年	系列科目	進級に必要な単位	
1年次から2年次	基礎教育科目	入 門 ゼ ミ	20単位以上
	外国語科目	英 語	
	保健体育科目	スポーツ総合	
	総合教育科目		
	SSI基礎科目		
	SSI専門科目		
	専門教育科目		
2年次から3年次	基礎教育科目	入 門 ゼ ミ	50単位以上
	外国語科目	英 語	
	保健体育科目	スポーツ総合	
	総合教育科目		
	SSI基礎科目		
	SSI専門科目		
	専門教育科目		
3年次から4年次	基礎教育科目	入 門 ゼ ミ	必修 4単位
	外国語科目	英 語	必修 6単位
	保健体育科目	スポーツ総合	必修 2単位
		スポーツ種目	
	総合教育科目		76単位以上
	SSI基礎科目		
	SSI専門科目		
専門教育科目			

〔注1〕 本規程は、現代ビジネス学科 SSI コース 1年次より適用する。

〔注2〕 休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となる。ただし、進級時期は学年度始め(4月)に限る。

## IV. 卒業再試験規程

### 1. 卒業再試験規程

卒業判定において、専門教育科目の卒業所要単位に不足が2科目以内(1科目の単位数が2単位または4単位にかかわらず)の者は、再試験を受けることができる。ただし、3月卒業再試験の対象科目より春学期開講科目は除外される。

※不足が3科目以上の場合は、自動的に留級が確定する。

[注1] 上記「専門教育科目の卒業所要単位」とは、〔卒業所要単位表〕中の専門教育科目を指す。

[注2] 卒業再試験の対象となる科目は、当該年度の履修登録科目のうち、春・秋学期試験、レポート提出および授業内試験等を受験の結果、不合格「D」の評価を受けた科目に限られる。

[注3] 下記科目は、卒業再試験の受験対象科目から除外される。

卒業要件として下記科目が不足している場合、4年次留級が確定する。

①「E」評価(=未受験)の科目

②総合教育科目

③専門教育科目のうち、情報処理関係科目、演習、他学部主催の公開科目

④SSI基礎科目、SSI専門科目

[注4] 卒業再試験の受験対象科目であっても、科目によっては授業開始前に卒業再試の有無が決定されているものもある。(「経済学部履修要綱」参照)

[注5] 現代ビジネス学科SSIコースにおいて進級再試験はいつさい行わない。

[注6] 秋学期休学者は、卒業再試験を年度末に受験することはできない。

## V. 科目履修基準

### 1. 各年次の科目履修基準

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	SSI基礎科目	SSI専門科目	専門教育科目	教職・資格科目		
								教職科目	SSI資格科目	※：資格科目
1年次生	8頁参照	スポーツ総合		入門ゼミ			9頁参照			
	4科目・4単位	2単位	6単位	4単位	12単位		12単位	※2加算10単位	加算4単位	
40 単位制限内で登録										

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	SSI基礎科目	SSI専門科目	専門教育科目	再履修科目	教職・資格科目		
									教職科目	SSI資格科目	※：資格科目
2年次生	8頁参照							1・2年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。			
	2科目・2単位							加算8単位			
40 単位制限内で登録								加算 24 単位			
64 単位以内で登録											

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	SSI基礎科目	SSI専門科目	専門教育科目	再履修科目	教職・資格科目		
									教職科目	SSI資格科目	※：資格科目
3年次生								1・2年次配当単位の未修得単位分について左記の単位に加算して履修できる。			
								加算8単位			
40 単位制限内で登録								加算 24 単位			
64 単位以内で登録											

	外国語科目	保健体育科目	総合教育科目	基礎教育科目	SSI基礎科目	SSI専門科目	専門教育科目	再履修科目	教職・資格科目		
									教職科目	SSI資格科目	※：資格科目
4年次生	※：4 単位以上・40単位以内で登録							加算8単位			
	※：64 単位以内で登録										

※1： 資格科目は、各年次6 4 単位以内で履修できる。

※2： 1年次には教職科目を最高履修単位の10 単位まで加算して履修できる。

※3： 4年次では4 単位以上修得しなければならない（留級した場合は通算して4 単位以上）。

※4： 4年次の教職科目については、各々履修単位の上限を設けていないため、4年次の最高履修単位の2 4 単位を加算した範囲で履修することができる。

## VI. 現代ビジネス学科 S S I カリキュラム

### 1. 基礎教育科目

#### 入門ゼミについて

経済学部履修要綱現代ビジネス学科 105 ページを参照

### 2. 外国語科目

#### (1) 外国語科目の構成

【設置科目】 英語

なお、外国語や外国の文化・思想を理解するとともに、自己表現方法やコミュニケーション手段としての語学能力の向上を計るため、1・2年生に配置される必修科目としての外国語科目に加え、総合教育科目に位置づけられる英語コミュニケーション、専門教育科目に位置づけられる英語セミナーなども開講されている。

#### (2) 履修基準・配当年次・科目

	外国語	合計
1年次生	Reading and Interaction A・B Listening and Presentation A・Bの4科目	計4単位
2年次生	Writing and Interaction A・Bの2科目	計2単位
卒業所要単位		計6単位

#### (3) 外部英語能力試験による英語の単位認定について

経済学部履修要綱現代ビジネス学科 107 ページを参照

### 3. 保健体育科目

#### (1) 保健体育科目の構成

高齢化社会を迎え、個人の健康管理はますます各自の責任に委ねられるようになってきている。経済学部では在学時および卒業後の健康管理方法を学べるよう、下記の科目を設置している。なおスポーツ種目 A・B は自由選択科目であるが、上記の趣旨に鑑みて、積極的に履修することが望ましい。

科目名	単位	履修年次	実施時期	履修方法
スポーツ総合A・B	各1	1年～	春学期 秋学期	体育会所属者の履修方法はガイダンス時に指示する。

科目名	単位	履修年次	実施時期	履修方法
スポーツ種目A（種目名・基礎）	1	2年～	春学期	1種目を選択し春学期に履修する。秋学期には同種目のB（種目名・応用）を履修しなければならない。
スポーツ種目B（種目名・応用）	1	2年～	秋学期	前期に選択した種目をBとして秋学期に履修する。春学期には同種目のA（基礎）を履修していないなければならない。
[卒業所要単位] スポーツ総合2単位必修。(卒業所要単位表参照のこと)				

## (2) 履修基準・要領

経済学部履修要綱現代ビジネス学科108～109ページを参照

## 4. 総合教育科目・専門教育科目

経済学部履修要綱現代ビジネス学科110～126ページを参照

2016年度入学生 現代ビジネス学科 専門教育科目一覧表 (※は2020年度未開講の科目)

【表の見方】  
 ( )内は単位数  
 演習(8)は8単位で2時限連続授業

【履修上の注意】  
 必修科目は2年次終了までに単位を取得すること

配当年次	必修科目	選択必修科目	選択科目	自由科目
1年次配当	企業と経済・基礎A・B(各2)	簿記ⅠA・B(各2) コンピューター入門A・B(各2) 企業経営入門A・B(各2) ビジネス数学入門A・B(各2)	社会経済学基礎A・B(各2) 経済史A・B(各2) 統計学A・B(各2)	データで知る世界経済A・B(各2) [IGESS科目] Japan and the Global Economy A・B(各2)(注4) Practical Economics A・B(各2)(注4)
2年次配当	経済データ分析A・B(各2) 企業と経済・応用A・B(各2) 簿記ⅡA・B(各2) 会計学入門A・B(各2) 原価計算A・B(各2) 日本経済論A・B(各2) 現代ファイナンス入門A・B(各2) [IGESS科目] Business Communication IA・B(各2)(注4)	演習(2年次)(8) 金融論A・B(各2) 財政学A・B(各2) 産業集積論(2) 経済地理(2) 商法一部A・B(各2) ビジネスプログラミング入門A・B(各2) コーポレートガバナンス論A・B(各2) ※国際ビジネス論A・B(各2) 企業実務研究A・B(各2) 計量経済学A・B(各2) スタディ・アプロード(専門)Ⅰ～Ⅲ 特別講義Ⅲ(2) [IGESS科目] Business Research Seminar A・B(各2)(注4)	社会経済学応用A・B(各2) マクロ経済学A・B(各2) ミクロ経済学A・B(各2) 国際経済論A・B(各2) 環境経済論A・B(各2) 経済人類学A・B(各2) ドイツ語セミナーA・B(各2) フランス語セミナーA・B(各2) 中国語セミナーA・B(各2) 開発経済入門A・B(各2) データ解析入門A・B(各2) アメリカ経済論A・B(各2) ヨーロッパ経済論A・B(各2) 現代アジア経済論A・B(各2) 中国経済論A・B(各2) 社会経済思想史A・B(各2) 日本国憲法A・B(各2) 民法一部A・B(各2) ドイツ語中級A・B(各2)(注1) [IGESS科目] Academic Research Seminar A・B(各2) Demography A・B(各2) Principles of Economics A・B(各2) Japan and ASEAN Economy A・B(各2)(注4) Japanese Business and Economy A・B(各2)(注4)	
3・4年次配当	企業金融論A・B(各2) 財務諸表論A・B(各2) 管理会計A・B(各2) [IGESS科目] Business CommunicationⅡA・B(各2)(注4)	演習(3年次)(8) 演習(4年次)(4) リスク・マネジメントA・B(各2) 企業経営史A・B(各2) 企業経営論A・B(各2) 監査論A・B(各2) 国際会計制度A・B(各2) 金融ビジネス論A・B(各2) ※比較経済システム論A・B(各2) 産業組織論A・B(各2) 労働経済論A・B(各2) 国際投資論A・B(各2) 情報経済論A・B(各2) 企業経済論A・B(各2) 商法二部A・B(各2) 経済法A・B(各2) 経営学A・B(各2) 特別講義Ⅰ [院]ミクロ経済学A・B(各2)(注3) [院]マクロ経済学A・B(各2)(注3) [院]計量経済学A・B(各2)(注3) [院]社会経済学A・B(各2)(注3) [院]経済史A・B(各2)(注3)	国際関係論A・B(各2) 経済政策論A・B(各2) 公共経済論A・B(各2) 開発経済論A・B(各2) 経済学史A・B(各2) 経済の数理A・B(各2) 世界の文化と思想A・B(各2) 環境科学A・B(各2) ※景気循環論 日本経済史A・B(各2) 農業経済論A・B(各2) 社会政策論A・B(各2) 社会保障論A・B(各2) 金融各論ⅠA・B(各2) 政治過程論(2) 国際政治論(2) 経済統計論A・B(各2) 世界経済史A・B(各2) 地方財政論A・B(各2) 国際金融論A・B(各2) 数理統計学A・B(各2) コンピューター科学A・B(各2) 現代社会と情報A・B(各2) 日本思想史(2) 日本文化史(2) 日本文化論(2) ※芸術と社会(2) 地球環境論A・B(各2) 環境政策論A・B(各2) スポーツ経済論(2) 国際貿易論A・B(各2) 地域経済論A・B(各2) 民法二部A・B(各2) 労働法A・B(各2) ドイツ語上級ⅠA・B(各2)(注2) ドイツ語上級ⅡA・B(各2)(注2) [IGESS科目] International Economics A・B(各2)(注4) Area Studies A・B(各2)(注4) ※Macro Economics A・B(各2)(注4) ※Micro Economics A・B(各2)(注4) ※Multi-National Enterprises A・B(各2)(注4) 特別講義Ⅱ 他学部公開科目	

(注1)「ドイツ語中級A・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

(注2)「ドイツ語上級ⅠA・B」「ドイツ語上級ⅡA・B」は「ドイツ語(a)A・B」「ドイツ語(b)A・B」「ドイツ語(c)A・B」の単位を修得済みの方のみ履修可能です。

(注3)大学院科目は卒業所要単位に含まれません。

(注4)英語学位コース「IGESS」との合同科目のため、英語で行われます。